



～生活支援体制整備事業～

ささえあい通信



今回は、田口校区で活動されています「ドリームたぐち」のご紹介です。

ドリームたぐちでは、月2回、田口校区の方ならどなたでも無料で参加ができる多世代交流の場として、「いこいの場」の開催、また地域のちょっとした困りごとの手伝いをされる「ちょっとかせする隊」を結成。主に田口地区で有償ボランティアの活躍をされています。代表の酒見さんに活動の醍醐味などを伺ってみました。

ー ドリームたぐちを立ち上げようと思ったきっかけは？



「ちょっとかせする隊」
活動風景

酒見代表：市との居場所づくりの話し合いをする中で、いつまでたっても進捗せずに（笑）そんなら「私が音頭をとって何かやってみるか！」と思い、やってみることにしました。最初は居場所だけのつもりが、より地域の方に喜んでもらおうとアンケートを取ったところ、たくさんの課題があることに気づき、困ったことに手が差し伸べられ、何歳になっても夢を持ち続けられる田口校区にしたいと「ちょっとかせする隊」も結成しました。

ー 活動をする上で何か気を付けていることはありますか？



ドリームたぐち代表
酒見 精司 さん

酒見代表：これはむずかしい、無理だ、出来ないと思ったことは最初からやらない。これが大切。出来る人にやってもらう。無理をすると気持ちが長く続かない。一緒に活動していただいている方にも伝えていますが、「できる人ができるしこ！」です。自分ができることをやってもらう。自分ができる事、出来る範囲が誰かの力になり、喜んでいただくという事が大事ですね。あとは「楽しんでやる！」これに尽きます。

ー 最後に酒見代表にとって、活動の醍醐味はどのようなことですか？

酒見代表：好きな事をするなども大切な生きがいの一つですが、誰かのお役に立てる、感謝されるという事は生きていく上で何より自分自身の存在価値につながると感じています。皆さんも「できる人ができるしこ！」でお互いさまの地域にしませんか？

～地域で行っている独自の取り組みを教えてください～

2025年には、いわゆる団塊の世代の皆さんが75歳以上の後期高齢者になられます。この2025年問題により、社会保障費が増大し、国家財政が圧迫され、現役世代への負担はますます大きくなります。また、今まで受けられた公的なサービスが受けられなくなる可能性も出てくると言われています。

そこで今後重要になってくるのが、地域での支え合いです。大川市社会福祉協議会では市内の公的なサービス以外で地域住民による活動や集いの場、社会貢献活動等を「地域の宝物」として捉え、支え合いの暮らしのヒントとしてご紹介したいと思えます。どんな些細な活動でも結構です。例えば、以下のようなことを教えていただくと幸いです！

- ☆地域の仲間と定期的集まってグラウンドゴルフをしている。
- ☆数人で集まってウォーキングをしている。
- ☆自分たちの地域でやっている取り組みを、もっと多くの方に知ってほしい。
- ☆少人数で集まって健康づくりや茶話会等をしているけど、もっと仲間を増やしたい。

このような情報がございましたら本会（86-6556）までご連絡下さい。

職員が取材に伺わせていただきます。